

横山ゆずり作 「恋愛」

- 効果音 (終業のチャイム)
- ナレーション ここは、都内のある高校です。ちょうど授業が終わったようですね。おや、向こうから 2 人の女生徒がやってきました。彼女たちの話をちょっと聞いてみましょう。
- 榎田さん ねえ幸子、駅前に新しくできた喫茶店、寄ってかない？
- 吉村幸子 ええ、行きたいけど、今日、ちょっと先約があるんだ。
- 榎田さん 誰と？
- 幸子 うん、健治君と待ち合わせなの。
- 榎田さん ああ、そうか。野暮なこと聞いちゃったわね。じゃあまたね。バイバイ。
- 幸子 (後ろから)ごめんね。今度付き合うわ。(モノローグ)健治君、待っているかしら。急がなくてよ。
- ナレーション 彼女、吉村幸子さんは、しばらく前から同級生でテニス部の田中健治君と交際していました。今日 2 人は、いつもの喫茶店で待ち合わせのようですね。
- 田中健治 遅い遅い。15 分遅刻だぞ。
- 幸子 ごめんなさい。友達とおしゃべりしてたら遅くなっちゃった。ずいぶん待った？
- 健治 まあいいさ。それより、ほら、これ見ろよ。
- 幸子 ン、なあに？ あらスゴい。フォークロックのコンサートの券。S 席じゃない。2 枚も？ これなかなか手に入らないんでしょう？
- 健治 まあな。苦労したんだぜ。今度の日曜日さ、もちろん行くだろ？
- 幸子 うん、日曜？ うん、あたし、日曜日はいつも…。
- 健治 「日曜日はいつも教会に行ってる」って言うんだろ？ そりゃ分かてるさ。だけど 1 回ぐらい休んだからってさ、神様、減りやしないよ。なんだよ、フォークロックのコンサートに行きたいと言ったのは、君なんだぜ。だから俺が無理して券取ったって言うのに。いいよ、そんなに神様大事だって言うんなら、行ってくれなくても。
- 幸子 待って。私、行く。行くわ！(モノローグ)そうよ。教会はいつでも行けるし、せっかく健治君が私のために券を取ってくれたんだもの。
- ナレーション こうして次の日曜日、幸子さんは教会を休んでコンサートに行ったのです。健治君と 2 人、楽しい休日を過ごした彼女は、その日、黙って教会を休んでしまったことも忘れてしまったようです。そして、数日たった土曜日、クラスで――。
- 担任教師 (出欠をとる)沢村(はい)、高田(はい)、高橋(はい)、田中。田中。…田中は今日も欠席か。今、風邪がはやっているようだから、他の者も気をつけるように。田辺(はい)、中川(はい)(FO)
- 幸子(モノローグ) 健治君、どうしたのかしら。風邪かしら。悪くならなければいいけど…。
- ナレーション その日の夕方、幸子さんは、学校を 3 日も休んでいる健治君に電話をかけました。
- 健治 (フィルター音)もしもし、やあ君か。流感にやられたらしくてさ、柄にもなく寝込んでしまって、参ったよ。
- 幸子 先生やみんなも心配してたわよ。まだ具合悪いの？
- 健治 (フィルター音)もう平気さ。月曜には行けるよ。授業はずいぶん進んじやたらうな。ノート

ってあるだろ？ 写さしてくれよ。あ、明日の日曜は、ノート持って俺んちに来いよ。な？

幸子 え？ ノートは取ってあるけど、あしたは…。

健治 (フィルター音)じゃ、明日 10 時な。待ってるぜ。(受話器を置く音)

幸子 待って！ もしもし？

音楽 (ブリッジ)

幸子 (モノローグ)あした、どうしよう？ 今週休んじやったから、今度は行こうと思ってたのに。教会の高校生みんなにも会いたいし…。いいわ、もう 1 回だけ。その次の日曜日は、きっと教会行くわ。

ナレーション どうとう幸子さんは、2 週間続けて教会を休んでしまったのです。榎田さんを始め、高校生会のメンバーは心配しています。

榎田さん 幸子さん、どうしたのかしら？ 2 週間も続けてお休みなんて。

男子教会員 僕の友達でねえ、先週の日曜日、吉村さんがクラスの田中と一緒に新宿にいたの、見たやつがいるんだ。

榎田さん ええ？ 牧師先生も心配なさってるし、田中君と幸子が付き合ってるのは知ってたけど、でも、まさか…。私、電話してみるわ。

ナレーション 当の幸子さんは、榎田さんたちの、こんな心配も知りません。そんなある日…。

効果音 (終業のチャイム)

担任教師 では、これで授業を終わる。ああ、それから、君たちに一つ注意がある。最近、男女交際などというものにうつつを抜かしている者がいるようだが、君たちも来年は3年なんだから、少し気を引き締めるように。悪いとは言わんが、そのために成績が下がったり、また高校生らしくない付き合いをしている者もいるようだけでも、気をつけるように。以上。

男子1 おい、今のあれ、誰のこったよ？

男子2 ほら、あいつらじゃないのか、田中と吉村。あの2人、前からできてるもんな。

男子1 田中のやつ、この間のテスト、相当悪かったらしいもんな。

男子2 ああ。

男子1 それに、俺よ、前の日曜、吉村が田中んちから出てくんの、見ちゃったもんにい。

男子2 高校生らしくない付き合いって、どんな付き合いかねえ。俺たちにも教えてくれよ、吉村さん。

生徒たち (笑い)

健治 あいつらの言うことなんか、気にすんなよ。それより、今度の日曜日、映画見に行こうぜ。「ワンオンワン」って言うバスケットの青春ものやってんだ。評判いいぜ。

幸子 健治君…。

音楽 (BGM)

幸子 やっぱり私、日曜日は教会行くわ。今は分かってもらえないかもしれないけれど、私にとって、神様って、イエス様っていうのはね、口ではうまく言えないけれど、大切なものなの。第一のものなのよ。

ナレーション 幸子さんは、たった今言った自分の言葉に、自分でもハッとさせられる思いでした。彼女はこの時、無意識に言った言葉によって初めて、神様が自分の心の中で、どのように大きなものであったか、思い知らされたようでした。その日の幸子さんの日記を見てみましょう。

幸子 (日記)2月14日。今日、私は、今まで自分がどれほど愚かだったかを、知らされた思いがし

た。自分では、イエス様を信じて、クリスチャンのつもりでいたけれど、礼拝に出席しないクリスチャンなんて、お話にならない。教会のみんなにも、心配をかけた。自分で気づかないうちに、私は、心の中で、神様と健治君を秤にかけてしまっていた。そしてその秤は、だんだん健治君の方に傾いていったのに、自分は気がつかなかった。今日、彼にはっきり、「日曜は教会へ行く」と宣言した。彼、私をにらみつけると、何も言わずに行ってしまった。ごめんなさい、健治君。でも、言ってよかったと思っている。いつかは、彼も分かってくれると思う。神様、どうぞこれまでの愚かな私をお赦しください。そして願わくは、健治君があなたを知ることができますように。

ナレーション

こうして幸子さんは、次の日曜日、3週間ぶりに教会に行きました。牧師先生や高校生会のみんなに、思い切って今までのことを話すと、みんなは健治君のためにも祈ってくれました。力づけられた幸子さんは、それから毎日、健治君のために祈りました。そしてまた、土曜日がやってきたのです。

健治

あのさあ、この間、君に断られた時は、はっきり言ってショックだったんだ。それであれからいろいろ考えてみたんだけど、よく分からなかった。でも、君をそんなに引き付けている神様って一体なんだろうって、ずっと思ってた。明日、僕らは都大会の予選で、朝から試合なんだけど…。

幸子

見に行けないけど、応援してるわ。

健治

やっぱりそうか。でも、ムリには誘わないよ。でもその代わり、その、教会ってのはどんなところか、教えてくれるかい？

幸子

ええ、喜んで。

聖書の言葉

ヨハネ第1の手紙4章16節。私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は、神のうちにおり、神も、その人のうちにおられます。

<完>